



福澤育林友の会

東京都港区三田2-15-45 慶應義塾 管財部

TEL03-5427-1050 FAX03-5427-1533

<http://www.f-ikurin.jp>



年頭にあって

(財)福澤記念育林会
理事長 森 征一

あけましておめでとうございます。

皆様にはお健やかな新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

旧年中は皆様には理事長就任一年目の不慣れな私にご協力を賜り、本当にありがとうございました。福澤記念育林会の行事や活動を何とかやり遂げることができましたのも、皆様の温かいご支援があったからこそ深く感謝申し上げます次第です。私にとっては9月の「栃木の森を訪れる旅」は有意義なものでした。「慶應の森」を散策し、緑豊かな木々や草花でいっぱいの自然とふれあう中で、育林の大切さを認識し、那珂川町で見事な天然鮎を堪能して、自然のありがたさを感じ、山縣農場で美味しい昼食をいただきながら、自然と人間の共存のあり方を学ぶことができました。参加された皆様とも親しくお話しができ、楽しく充実した二日間の旅でした。

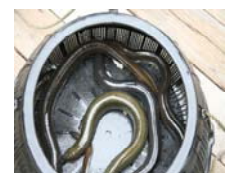
この旅を通して私は改めて福澤先生の偉大さを思いました。明治27年、先生が故郷・中津に帰省したとき、菊池寛の名作『恩讐の彼方に』で広く知られる、耶馬溪の「青の洞門」付近の山地が売りに出されているという話を聞き、この景勝地の樹木が伐採されてしまうことを危惧した先生は、私財をもってこれを買取りました。環境問題に関心が薄かった時代にあって、先生はまさに「独立自尊」の姿勢で自然環境の保全の先駆的な試みをされたのです。私は福澤先生のこの精神を忘れることなく、福澤記念育林会の事業を展開させていきたいと考えております。

最後になりましたが、この一年が皆様にとりまして幸多き年でありますよう、心よりお祈りいたします。



福澤記念育林会の第5回研修旅行「栃木の旅」

2006年9月9日の朝、52名の参加者（途中から乗車の方を含む）を乗せたバスは、東京の三田を出発、栃木を流れる那珂川へと向った。3時間ほどで、河畔に佇む「余一やな」に着いた。同店を経営する猪股英毅ご夫妻（福澤育林友の会会員）の暖かい出迎えを受け、昼食に清流那珂川でとれた天然鮎の塩焼きや刺身を堪能させて頂いた。また、この川で獲れた大きなウナギも見せて頂いたが、恐らく美味しい天然の鮎を餌として育ったのであろうか、丸々と太った見事な姿で、那珂川の豊かさを改めて実感した。



食後、今回の研修旅行のメインスポット「友情資産 25年の森」に向かった。ここは慶應義塾大学の昭和51年の卒業生達が、卒業25周年を記念してヒノキや杉に加えて桜などを植林した山林である。わずか4年前に植林したのだが、地味が良いのか樹高は早くも2mを超えるまでに順調に育ち、自分の植えた木の成長に感激している人もいた。場所によって育ち具合が違う理由や、今後必要となる手入れ等について話し合うなど有意義な時間を過ごした。

その後、1283年に開山された臨済宗の禅寺「雲巖寺」に立寄った。歴史ある禅寺に相応しい質素な中にも荘厳な雰囲気のある寺院で、暫し日頃の喧騒を忘れ、心が鎮まった。特に境内には天然記念物に指定されている杉の大木が有り、その雄大な姿に魅せられて胸がスカーツとした。

雲巖寺を後に、著名な隈研吾氏（慶應義塾大学理工学部教授）が設計の馬頭広重美術館に立寄った。この美術館は切妻の大屋根を持つ優美な平屋で、地元産の八溝杉と手漉き和紙を装飾に用いた建物である。その姿は周辺の景色にも溶け込み広重の美術館に相応しい感じだった。

秋の夕闇が迫る中、今夜の宿舎「那須グリーンコース」に到着、森林の保全に大変ご尽力されている山縣睦子さんと同宿舎の青山薫支配人の出迎えを受ける。宿舎のレストランで開催された懇親会では、一同、賑やかに団欒を楽しんだ。



懇親会の後、桜本光教授による「実学の精神について」の講演を頂いた、講演では明治2年に商人会社第一号として設立された丸屋商店（後の丸善）や、福澤先生が訳語を考案された言葉などの解説を頂き大変興味深く拝聴した。その夜は猪股氏から差入れて頂いたお酒「亀太郎」を傾けながら夜が更けるまで楽しく語り明かした。

翌9月10日深い霧に包まれ、深山の幽玄な趣を思わせる素晴らしい景色の中を伊王野山林に向かった。この山林は（財）福澤記念育林会が昭和41年に初めて植林した山で、植林して40年を経過し、杉や桧は建築用材として利用出来るまでに育っていた。しかし、近年の木材価格の低迷により収益が上がるようになるまでには未だ相当の年数を要するものと思われた。



伊王野山林を後に、山縣さんの経営する山縣農場に向かった。ここは明治の元勳「山縣有朋」公が開かれた農場で、山林の麓には瀟洒な木造洋風建築の山縣有朋記念館が開設されている。建屋と共に遺品や資料の展示を興味深く拝見致した。また、裏山は良く手入れされた杉の美林が広がっており（財）福澤記念育林会の山林もこの様に育成できればと遠い将来に夢を馳せた。見学後、日差しが心地よいお庭で昼食を頂いた。地元の食材を使った心のこもったお食事で、大変美味しく一同感動した。

後ろ髪ひかれる想いで美しい山縣農場に別れを告げ、最終の目的地「益子」に向かった。ここは有名な民芸陶器「益子焼」の窯元が集積しているが、現在の隆盛の基礎を築かれた「浜田庄司」の工房だった益子記念館を見学。続いて、山縣さんのご紹介で益子焼を販売している売店に立寄り、この旅の記念となる品々を求め店内を探索し楽しいときを過ごした。

ふたたびバスに乗り込み、きれいな夕焼けを楽しみながら一路三田に向かった。（文責 海瀬亀太郎）

平成 17 年度研究支援補助金を受け、実験に協力した都立農芸高等学校が環境博覧会「環境にやさしいで賞」のグランプリを受賞しました。

この賞は、杉並区の環境問題に取り組んでいる事業者、個人などに贈られる賞で、区民の投票を基に専門家の審議により決定されるものです。今回投票総数 952 票中、508 票を同校が獲得、グランプリとなりました。



福澤記念育林基金を設置

財団法人福澤記念育林会では、事業目的である「模範的な森林経営を行うことにより、森林資源の維持培養を図り、かつ林業の経営、技術に関する調査研究を通じ、林業を広く社会的に啓もうし、林業の振興発展に寄与するとともに、その他公益の増進に資する事業を行うこと」を達成するために福澤記念育林基金を設け、平成 19 年度から林業経営、林業技術の近代化および合理化のための調査研究ならびに林業知識の普及や公益の増進に資するための調査・研究に対し以下の支援を実施いたします。

- ・活動支援（対象 高校生から NPO などの団体）

現在一般公募により実施している研究支援事業の延長線により支援内容を拡充して、支援額として 20 万円の支援を実施します。（事業は、平成 19 年度より毎年実施）

- ・研究支援（対象 大学院生以上の研究者）
公益の増進に資する研究活動を行う大学院生及び研究者を対象に研究費を支給します。支援額は、年間 100 万円を限度とし、毎年、公募により新規または継続課題を 1 件選定し、継続の場合でも最長 3 年まで認めるが、継続を認めるか否かについては、1 年毎に他の課題と比較した上で決定します。（事業は、平成 19 年度より開始）
- ・研究者の海外派遣支援（対象 大学院生以上の研究者）
公益の増進に資する研究活動を目指す大学院生ならびに研究者を対象に、海外の大学または研究機関への留学を支援する奨学金として支給します。当面は、奨学金は 1 名当たり 200 万円を限度とし、留学期間 1 年以上の者を対象に、隔年で公募により 1 名を選定します。（事業は、平成 19 年度より公募を開始し、平成 20 年度より奨学金を支給）
皆様の応募をお待ちいたします。

平成19年度「研修旅行」の予定



山形県最上地方を理事の岸 三郎兵衛氏の案内で研修旅行(1泊2日)を予定しております。

- 1日目：東京駅 山形新幹線つばさ（乗車時間3時間半）→新庄駅着（集合）→貸切バス→金山町着 - 「街創り 100 年計画の金山町」視察・樹齢 240 年の杉林視察・記念講演 - ホテルシェーネスハイム金山(宿泊)
- 2日目：ホテル発→最上川船下り→慶応義塾大学先端生命研究所・東北公益文化大学視察→高速山形道(月山越え)→山形駅（解散）

上記工程は、変更の可能性もあります。スケジュールを調整中ですので、決定次第、友の会ニュースおよびホームページで皆様に案内させていただきます。

平成19年度「森を愛する人々の集い」の案内

2007 年の「森を愛する人々の集い」は 6 月 9 日（土）午後 3 時開催の予定です。講師に異文化コミュニケーションのマリ・クリスティーヌさんをお迎えします。「愛知万博」では広報プロデューサーとして万博の成功の原動力になりました。諸外国で暮らされた体験に基づく幅広い視点から都市計画・環境・女性問題・子供たちの問題など幅広く取り組んでおられます。この機会に多数の方々にご参加いただき、マリ・クリスティーヌさんのお話を聞いていただければと思います。皆様の参加お待ちしております。



異文化コミュニケーター

マリ クリスティーヌ氏

MARI CHRISTINE

国連ハビタット親善大使

父親の仕事に伴い 4 歳まで日本で暮らし、その後ドイツ、アメリカ、イラン、タイ等諸外国で生活。単身帰国後、上智大学国際学部比較文化学科卒業。この頃スカウトがきっかけで芸能界へ。94 年東京工業大学大学院理工学研究科社会学専攻修士課程修了。今現在も都市工学を学んでいる。

生まれながらの環境から学んだ幅広い視点から国際会議・式典等の司会、講演活動など多方面にわたる活動をこなす。

- | | |
|------------|---|
| 1996 年 6 月 | AWC（アジアの女性と子どもネットワーク）代表
ボランティア活動などにも精力的に活動している。
(URL http://www.awcnetwork.org/) |
| 2000 年 6 月 | 国際連合人間居住計画（国連ハビタット）親善大使に任命される。
United Nations Human Settlement Programme (UN-HABITAT)
(広報活動、居住問題の解決のための活動を続けている。)
(URL http://www.habitat.or.jp/) |
| 2002 年 3 月 | 2005 年日本国際博覧会 愛・地球博 広報プロデューサー就任 |
| 2006 年 4 月 | あいち海上の森センター長 就任 |

- | |
|--|
| <主な著書>
「愛・LOVE・フレンドシップ」中日新聞社
2006.3
「ありがとう 愛・地球博」ユック舎 2005.12
「お互い様のボランティア」ユック舎 2005.7
「自分を生かす人見失う人」海竜社 1998.7
「心地よい我が家を求めて」TBSブリタニカ 1997.1
「ひとを素敵と思う朝」立風書房 1992.10 |
|--|

KEIO FOREST CLUB 2006年度夏合宿報告

私達 KEIO FOREST CLUB は、通常活動として日吉キャンパスの蟻谷で雑木林の管理を行っています。そこでは間伐、下草刈、道作り等を中心とした雑木林の保全活動及び荒地を元の森に戻す為に植林活動を並行して行っています。また、毎年長期休暇には全国各地の慶應所有林に赴き福澤記念育林会の方のご指導の下、林業体験をしています。昨年度の「宮城県志津川の森」に引き続き、本年度は、8月24日から3泊4日で「和歌山県有田川町（旧清水町）」の森を訪れ、海瀬亀太郎様やマルカ林業の方々にお世話になりました。



合宿初日は、慶應の森の散策を行いました。和歌山の森は慶應所有林の中でも最も険しいと言われるだけあって、散策するのも一苦労でした。散策というよりは、登山という表現の方が正しいかもしれません。その分、所有林の頂上に達した時の蝉の声や風の音、川のせせらぎや透き通った水の流れは、都会の生活では決して感じる事の出来ない心地よさがありました。その後、宿泊させていただいている屋敷のお庭で満天の星空の下、バーベキューを楽しみました。気持ちよく汗を流した後のバーベキューは格別だったので、ご好意に甘えさせて頂き少々食べ過ぎてしまいました。



2日目は、マルカ林業様の倉庫で、毎年三田祭で配布している慶應大学のペンマークの焼印を入れたコースターと、今年初めての試みとなる本格的なベンチ作りを班毎に分かれて行いました。作業を始めた当初の予想以上に、ベンチ作りは大変でした。木材の表面のヤスリがけや、数ミリのズレも許されない組み立て作業は、私達を悩ませました。それ故に完成した時の達成感は、なかなか味わう事の出来ないものとなりました。そして、日頃何気なく店頭で購入する家具を自前で作る大変さを、身をもって感じました。



そして、いよいよ本格的な林業体験を行う3日目に近くの森へ出掛けて、まずはチェーンソーの扱い方の説明を受けました。説明を受けている時はとても簡単に思いましたが、実際チェーンソーを手につくと想像以上の重さがある上に振動で思い通りに木を切る事すら困難でした。また、日本の木材を箸として使う事で日本の林業が活性化されるという、逆説的にも思える様な含蓄のあるお話も頂きました。その時に切った丸太でその後薪割り体験を行いました。日頃、「斧」というものを扱った事のない部員が大半で、一からの体験でした。『ヒヤッ』とする様な場面に何度も遭遇しましたが、大変貴重な体験をする事が出来ました。午後からは和歌山大学の留学生と合流して近くの川で遊びました。大変暑かったので皆で川に入って遊んでいましたが、少し前に降った夕立の影響で急に川が増水して、対岸にかなりの人数が取り残されるという事態が起きました。ゴムボートで救出に向かい、それはさながら本格的なレスキュー訓練の様でしたが、救出されて



ボートに乗っている人はラフティングを楽しんでいるかの様でした。

3泊4日は、長いようで短い時間でした。しかし、濃密な時間の中で、私達は都会の学生生活では味わう事の出来ない沢山の貴重な体験をしました。こうした機会を私達に提供してくださり、和歌山に滞在中ずっと面倒を見て頂いた海瀬亀太郎様をはじめマルカ林業の方々には大変感謝致しております。楽しい夏合宿を過ごせたのも、この様な手厚い支援があったからに他なりません。深くお礼申し上げます。



慶應義塾大学フォレストクラブ 中谷憲介 大野翔太